

国立大学法人 大阪大学 吹田キャンパス テクノアライアンス棟



所在地：大阪府吹田市山田丘2-1
延床面積：約11,070㎡
構造・規模：鉄骨造、地上9階建
設計：建築／(株)東畑建築事務所
設備／(株)新日本設備計画
施工：建築／(株)鴻池組
電気／六興電気(株)
完成：平成23年4月

S91

2011(平成23)年に創立80周年を迎える大阪大学。

キャンパスの中心部に産学連携活動の拠点となるテクノアライアンス棟が完成しました。

先進的な研究活動を行う施設にふさわしく省エネ照明器具などが多用され、CO₂排出量の削減に配慮されています。

企業の研究所が入居して共同研究を行う、産学連携の中核施設

大阪大学では、吹田キャンパスに産学連携活動の拠点としてレンタルラボ施設を建設。「開かれた交流空間の創出」、「高品質・高機能な研究・実験施設」、「キャンパス景観に配慮した外観」をコンセプトにした施設となっています。

基準階は高度化、多様化する研究内容の変化に対応する、柔軟性をもったレンタルラボスペースとし、入居者エリアの明確なゾーニングによる確実なセキュリティ計画などにより、高機能な研究・実験施設を実現。また、低層部のアライアンスホールや交流サロンなどのコミュニケーションスペースは、学生や研究者同士の交流を誘発し、産学連携活動を象徴する空間となっています。

建物の機能を維持しつつ、省エネルギーに長けた照明計画を実施

アライアンスホールの照明は、高効率、高演色の250Wネオセラダウナライト電動昇降装置付を均等配置し、多目的な機能性と吹抜空間全体の見通しのよさを両立した照明空間を創出。その奥の交流サロンは、FHP45W3灯用及び4灯用埋込器具カバー付による拡散光により、ゆったりとした知的コミュニケーションの場を提供しています。2階は事務機能や会議室を1フロアに機能的にまとめ、中央部はブリッジのかかった開放的な空間となっています。事務室の照明は高出力調光形のHf32W遮光角制御形埋込器具を採用。あかりセンサーとの連動による初期照度補正と昼光利用制御で適正照度を確保しながら、省エネを図っています。

2階ホワイエの照明は、ベースにFHP45W3灯用深枠カバー付埋込器具を採用し、木製意匠壁の照明として、温もりを損なうことのない50Wネオセラユニバーサルダウンライトを用いて、より引き立てた空間としています。

3階から9階の研究室・実験室フロアの照明は、2階事務室と同様器具を採用し、窓際及び室内の2か所にあかりセンサーを設置。窓際照明の昼光利用制御及び室内照明の初期照度補正により、余剰な明るさをカットして省エネを図っています。同フロアの廊下の照明は人感センサーとの連動により、人がいないときは25%の明るさで点灯しています。



1階交流エリアの交流サロンの照明 FHP45W3灯用及び4灯用埋込器具カバー付を採用。柔らかな拡散光でゆったりと落ち着いた空間を演出



遮光角制御形器具とあかりセンサーを採用した事務室の照明



250Wネオセラダウナライト電動昇降装置付によるエントランスの照明



吹抜ブリッジ周りの照明



2階ホワイエの照明 ベースに4灯用スクエア器具を、木製意匠の壁面にネオセラユニバーサルダウンライトを配置



交流エリアのアライアンスホールの照明 吹抜天井に250Wネオセラダウンライト電動昇降装置付を採用し均等配置。多目的機能に対応しながら、メンテナンスにも配慮



遮光角制御器具による研究室の照明



3階から9階にある交流ロビーには窓際に建築化照明を配置



実験室の照明 Hf32W2灯用遮光角制御器具を採用し、あかりセンサーで初期照度補正と昼光利用制御により、省エネしながら適正照度を確保



正面玄関前の外構照明

主な照明器具一覧

設置場所	器具名	形名	台数	ランプ・備考
室内	HIDダウンライト	DD-25188F	14	250Wセラミックメタルハイドランプ(ネオセラ)
		DDU-10101-200	17	100Wセラミックメタルハイドランプ(ネオセラ)
	HIDユニバーサルダウンライト	DD-05154	9	50Wセラミックメタルハイドランプ(ネオセラ)
	蛍光灯ダウンライト	FHD-11016-PN9	285	16Wコンパクト形蛍光ランプ
	LEDダウンライト	LEDD-20001MW-LS9	26	LED 消費電力:26W
		FHR-54328K	27	45Wコンパクト形蛍光ランプ×4
	蛍光灯埋込器具	FHR-53328K	25	45Wコンパクト形蛍光ランプ×3
		FHR-42713N-PD9	1066	32WHf蛍光ランプ×2
		FHR-41407NM-PD9	253	32WHf蛍光ランプ